



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL: 0155 (37) 5501
発行日 令和3年1月29日

大学入学共通テスト無事終了。本校からは120名受験。

1月16・17日の両日にわたって初の共通テストが行われ、無事終了しました。本校からは120名が受験しました。コロナ禍の中での初の共通テストということで、受験対策のみならず感染症予防にも気を遣いながらの受験でした。受験生の皆さん、そしてご家族の皆様、本当にお疲れ様でした。

本校では22日、進路検討会で予備校等からの情報をもとに入試動向を確認。受験した生徒一人一人について状況を確認しました。これを最終的な受験校選択の際の指導に役立てていきます。

佐藤明彦進路部長は今年の状況について、次のように述べています。「新傾向の問題に戸惑った部分もありますが、全体的にはよく頑張ったといえます。ただ、当初の予想よりも平均点が上がり、さらに理科②と公民で得点調整となりましたので、それが今後ボーダーにどう影響を及ぼすか曖昧な部分もあります。それでも将来をしっかり見通して前期、中期、後期と受験校を決めてほしいと思います。過去に追加合格を勝ち取った生徒もいます。後



【2次試験対策に励む生徒たち】

期受験まで諦めず粘ることが重要です。既に2次試験対策の講習も始まっています。先生方も全力でサポートしています。」

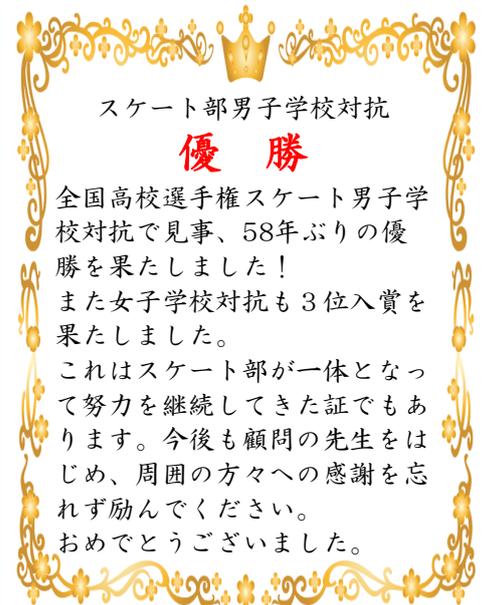
国公立入試2次試験の出願は2月5日(金)までとなっています。また、私大受験も迫っています。コロナ感染対策を徹底して最後まで頑張ってください。

「探究活動キャンプ」に本校からも2名参加

1月8・9日、道教委主催「探究活動キャンプ」が各校をZOOMでつないで行われました。これは、自ら課題を発見し、その解決方法を協働して探る探究活動を通して、次世代のリーダー育成と学力向上、進学意欲の高揚を図る目的で毎年実施されているものです。本校からは2年1組菊池悠太くん、2年2組柳谷綾香さんが参加しました。まず「地域の資源を活用した地域創生」をテーマに北大・岡田真弓教授の講演があり、続いて、経産省北海道経済産業局・秋田卓也氏から「地域経済分析システムRESAS」についての説明がありました。その後、探究活動を行い、2日目はその発表が行われました。

本校チームは「コロナ禍でのアピールが十勝を救う」と題して十勝の観光をデータに基づいて検証し、その方策を提案しました。コロナ禍以前は外国人観光客数18万人に対し、以後はなんと約300人(令和2年度上期宿泊者)。この実態を踏まえて、十勝のアピール策としてWEBサイトの多言語化、ハラルへの対応、オンラインツアー、ふるさと納税返礼品にレジャーチケット導入などを提案しました。大変興味深い内容で各校から質問や感想が寄せられました。二人は「改めて十勝について見つめ直せた」「キャッチーな話題を提供できた」と述べ、「達成感を感じた」と笑顔で話してくれました。

本校でも探究学習は総合的な探究の時間(Cプロジェクト)で行っていますが、現在は学校外にこうした発展的な学習の機会・イベントやコンテスト等が沢山あります。皆さんもチャレンジしてみたいかがでしょうか。



スケート部男子学校対抗

優勝

全国高校選手権スケート男子学校対抗で見事、58年ぶりの優勝を果たしました!

また女子学校対抗も3位入賞を果たしました。

これはスケート部が一体となって努力を続けてきた証でもあります。今後も顧問の先生をはじめ、周囲の方々への感謝を忘れず励んでください。

おめでとうございます。

お知らせ
第25回書道部校外展

会期: 2月2日(日)まで 10:00~18:00
最終日は16:30まで
会場: 帯広市民ギャラリー ★無料で書の世界に是非ふれてみてください!

※ 先月号で予告した小中インターンシップは次号で報告します。

第9回 図書情報部長 高澤 健 教諭

とにかく考える。そしてイメージしろ！



◆数学は一人の先生の出会いから!?

高校は私服で自由な校風の学校に行っていたのですが、先生によっては管理的な先生もいて反発することもありました。高校2年生の担任とは合わずに学校をやめようかと思ったこともあります。「おまえのような生徒がいるから高校のレベルが下がるんだ」なんて言われたりして。でも学校をやめた後のイメージが見えなかったため、それはやめました。高校3年になって理系男子クラスになり、担任の先生が数学の先生に代わりました。実はその先生は1年の時に数学を教わった先生で、私はその先生の授業で数学が好きになったのでした。本当に人との出会いは人生をも変えてしまうものですね。私はそのまま数学を学びたくて教育大へ進学したのです。

◆考えようとする努力を諦めるな！

三条高校に赴任して9年を終えようとしています。生徒のペースは変わっていないように思います。真面目に学習に取り組み、行事で盛り上がる。能力は十分高いからやれと言われたことは忠実に実行できるけれど、その応用となると弱くなってしまいます。ですから、私は生徒に結果だけではなく過程を大事にしろと言っています。問題に当たって、まずその内容をイメージ化することが大事です。そしてアプローチをどうするか考える。課題解決の方法は一つではありません。いくつも方法がある中でどれがいいか、じっくり考える必要があります。

ます。ところがうちの生徒はすぐ答えだけを求めて、わからなかったらずっと答えが出るのを待っています。考えようとする努力をあきらめてはいけません。考えるのを簡単に諦めてしまうようになると、自分で解決せず誰かがやってくれるのを待つようになってしまい、いづれ人に頼るだけの生き方になってしまいます。

◆高校時代は人間形成の大事な時期

教員になって陸上部を任されましたが、自分は陸上の経験は全くありませんでした。本やビデオを見たり、大会等で色々な先生に指導法を聞いたりしては、授業の合間にグラウンドで練習して学んできました。そして現在は十勝陸上専門委員長を務めています。わからない、できないは自分への甘えです。全てにおいてしっかりイメージを作って、そこへ向かって努力することが大切です。

こうして振り返ってみますと、高校での活動は人間形成において重要であり、活かすも殺すも教員であり、生徒自身であると思うのです。

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。



キラリ

放送局がビデオメッセージ部門全道2位 総文祭出場決定！

局長・2-2 下里佳輝 くん 副局長・1-5 堀井咲良さん 1-6 鈴木沙有理 さん



放送局は高文連放送コンテスト・ビデオメッセージ部門で2位となり、この夏和歌山で開催予定の全国総文祭の出場権を得ました。中札内村在住の梶山智大さんのスノーア

ない姿勢のお陰でいい作品ができるのだということでした。

ナレーションを担当した鈴木さんは「ものすごい時間をかけて作ったものです。作品に深みを持たせるために追加取材をするなど妥協せず貫いたことが結果にあらわれてよかったです」と語ってくれました。他の二人から鈴木さんのナレーション技術の成長を褒められた鈴木さんは謙遜していましたが、本当に上手いと私も思いました。とても聞き取りやすいナレーションでした。

さて、放送とひとくりに言っても朗読部門もあればドラマ部門まであるという実に多彩な部活動ですが、その魅力を下里君は「みんな伸びていくことができるのが一番の魅力です。ただ繰り返して練習するだけではなく、みんなで議論してつくりあげていく部活動なのです」と話すと、堀井さんも「誰もが初心者から始めます。そこからみんなで取り組んで、みんなで伸びて結果を出せる。大変面白くてやがいのある部活です。ぜひ入部してください」とPR。鈴木さんも「様々な出会いがあって、色々な経験ができます。そして例えばニュースを聞いたり、本を読んだりしたその積み重ねの一つ一つが自分の表現につながります。感性を磨き、価値観を磨くことのできる場です」とまとめてくれました。

トの制作からイベントまでを取り上げた作品で、北海道の自然の素晴らしさを全国の高校生に紹介したいと意気込んでいます。

受賞の喜びを下里局長は「リモート開催だったので、最初は実感が湧かなかったのですが、気温がマイナスの中で手がかじかみながら長時間にわたって撮影した作品でしたので、それがムダにならずによかったと思いました」と振り返りました。ラジオ部門5位の堀井さんは「然別湖のナキウサギをとりあげましたが、声を収録するための登山が厳しかったです」と笑いながらも「顧問の安藤先生のアドバイスのお陰です」と感謝を口にしました。ここで安藤先生の指導について3人はしばし盛り上がりました。的を射た指摘と妥協し

この経験を糧に将来はぜひ放送業界で活躍してください！